

委員意見一覧

推進方策Ⅰ

「森林の有する多面的機能の高度発揮」についてのご意見（具体的な取組等）

委員名	ご意見
佐藤副会長	<p>熊本市内の森林やヒートアイランドの緩和（木造・木質）、生物多様性の保全、森林レクリエーション・子供たちの環境教育的利用、生活環境の整備（放置竹林対策）が重要だと思います。温暖化防止、水源涵養、災害防止などについても少なからず役割を果たしていますが、それらは白川流域など流域レベルで森林を整備することが必要であり、熊本市の森とともに上流域の森林を意識するような取り組みが必要だと思います。そのために、上流域の森について知る小学校の社会科見学を必ず実施して、経費を森林環境譲与税から支援するなどあってもよいのではないかと思います。岐阜県恵那市のNPO法人森林塾では下流域の子供たちの受け入れをしていますし、林業従事者要請、森林ボランティアの育成なども主になっています。</p>
井野委員	<p>森林は、管理されてこそ、多面的機能の高度な発揮が行える。近年全国的な問題となっているナラ枯についても、以前は、薪炭として適切な大きさになれば、伐採し利用されていたものが、近年は利用しなくなったことから、樹木が大径化し、樹木の樹勢が衰える時期に害虫により枯たものだろうと思われる。荒廃した森林では虫害だけでなく、それを食する小動物も増加し、里山では近隣の住宅や田畑への被害も増加する事が懸念される。やはり、解決するには、近隣の住民の意識が重要となる。その中で最も重要なのは、地域の核となる人物であると思う。他の都市の取組についても、活動の核となる団体や、人物の意欲のある組織が、目的をもって活動している。目的や意識の向上のためのセミナーや事例発表の場の提供が、熊本市としての協働の森づくりとして重要になると思う。</p>
本田委員	<p>近年における森林の有する多面的機能を発揮するためには、災害に強い森林づくりが重要だと思います。多面的機能には、地球環境保全、物質生産、生物多様性保全、保健・レクリエーションなど、その他いくつかありますが、今一番、高度発揮しなければならないのは、『土砂災害防止・土壌保全』と思われます。市内数カ所において、森林自然観察会や森林ガイドを実施していますが、毎年、危険箇所が増えているのが現状であります。参加者の中には、森は危ないと言う人もいました。森林整備や林産物生産等の継続的な事業を推進するうえでも積極的に取り組むべきと思われます。具体的な取り組みはありません。</p>
甲斐原委員	<p>市HPで「多面的機能」「体験施設（内容・場所等）」イラスト含めて紹介</p>

委員意見一覧

推進方策Ⅰ

「森林の有する多面的機能の高度発揮」についてのご意見（具体的な取組等）

委員名	ご意見
柿本委員	<p>●森のゾーニングを行う。主に広葉樹林（天然林）と、主に針葉樹林（植林地）に加えて環境林（混合林）などの緩衝地帯を設ける。（環境林の言葉は三重県を参考）</p> <p>●水源涵養保安林は、広葉樹に戻す（植えない森）、雨水は獣のフンや死骸や、樹木の腐葉土がなければ美味しい水に濾過されない。</p> <p>●沢沿いは実生で植えるなど根の張り場所を作らないと、土砂災害も防げない。</p> <p>●林道とシシ垣の整備。</p> <p>●森育の推進、緩衝帯までは人が入っていく。バードウッチングや、植林、育林のワークショップ会場など。</p> <p>●これまでの森は、人が生き物の棲家に侵入していく形で開発されてきた。獣被害はその反撃にあっているとも言える。棲家に戻し、互いの距離感を調整していく必要があると考える。森に多様な生き物が居なければ、未来に自然はないと思います。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;"> </div>

委員意見一覧

推進方策2

「放置竹林対策の取組の拡大」についてのご意見（具体的な取組等）

委員名	ご意見
田口会長	<p>熊本県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会が担当されている事業との連携が重要である。国の予算が活用できるところは活用し、熊本市では補助金を獲得するまでの支援や補助金が得られなくなった後の支援などを担当していただきたい。</p> <p>熊本市内の各地域の企業、団体が多く参入し、地元密着型の放置竹林対策が可能なように支援していただきたい。</p>
佐藤副会長	<p>地元住民主体によってさまざまな取り組みがみられ、まずはそれらの活動を支える、とりわけ若い活動参加者が増加することが必要だと思えます。竹材の販売の出口の有効なものがあればと思えます。思いつきですが、かつて使われていたように有明海のノリ養殖など水産業で竹材を再度使えないでしょうか。現在、海の廃プラスチック問題は環境問題の中でも特に深刻です。そうした物質循環の中に竹を位置づけることが第一に必要だと思えます。</p> <p>もう一つは、保全団体の継続の問題です。都市近郊の山林管理を所有者以外で管理するしくみを千葉県（多数NPOができていますが、私が訪問した中で面白かったのはバランス21という団体）が作っており、参考になるかもしれません。</p>
高宮委員	<p>全国的に問題になっている件で、改善策へのアイデアはありません。ちょっとでも使うということで、例えばメンマの代わりにメンモウソウとでも名を付けて、国産のラーメン具材を使った熊本ラーメンを販売するとか、竹炭を大量に作り市民に配布するとか。</p>
井野委員	<p>森林・山村多面的機能発揮対策交付金を利用した竹林整備を実施する活動組織が年々増加しており、平成25年の開始時は1組織～H26→8、H27→9、H28→11、H29→8、H30→10、R1→13、R2→15と活動を行っている組織が年間40haの森林で、荒廃した竹林の整備を行っており、確実に放置竹林の取組は拡大している。</p> <p>その、主な理由として、交付金の特徴があると思われる。一律な活動に対して助成するのではなく、それぞれの活動組織の現状にあった活動に対し助成する制度であり、ある程度自由度があり、活動される組織には使い易く、活動が広まったのでは無いかと思う。</p>

委員意見一覧

推進方策2

「放置竹林対策の取組の拡大」についてのご意見（具体的な取組等）

委員名	ご意見
本田委員	<p>放置竹林対策の具体的な取り組み等について、熊本市市有林の小山山の放置竹林対策を”神園山小山山緑地内環境保全ボランティア活動”の一環として、11年間実施してきました。現在、面積は約3000㎡ですが、少しずつ拡張しており竹林伐採跡地には、広葉樹等の植林をしています。ただ、伐採後、3年間は樹木と競合する高さのタケノコが生え年3回の刈払い機による除草を含めた作業をしなければならず、継続的な管理が必要と思われました。時間と労力が必要であると認識させられた。また伐採した竹は、一部、竹細工及び竹炭等に提供しましたが、伐採竹の総量を処理する為の有効活用には、遠く及びませんでした。一般的に限られた竹の活用方法ではなく、活用になるかは分かりませんが、例えば家畜の餌など、企業等が経済的利益を生む竹の有効活用方法が無いと放置竹林の解消には繋がらないと思われます。</p>
甲斐原委員	<p>「放置竹林対策について」市HP：「市民との協働の森づくり連絡会議」主催のシンポジウム開催、実施団体のネットワーク化（森づくりネット登録、イベント紹介）</p>
柿本委員	<ul style="list-style-type: none"> ●伐採-1) 建材やエネルギーへ、マテリアルと、源として活用、南関町とも連携、将来的には土木利用もしたい。CLT橋梁ではなく竹橋梁か？ ●伐採-2) 市民が竹活用できるワークショップや場づくり。竹アクセサリ、竹橋づくり、竹ドーム、遊び場、竹を使ったシシ垣づくりなど ●伐採-3) 竹イベント、タケノコ狩り、食イベントとコラボ、伐採ボランティア(森林通貨)

委員意見一覧

推進方策3

「市民が親しむ森林空間の創出と森林に対する市民理解の醸成」についてのご意見（具体的な取組等）

委員名	ご意見
田口会長	<p>屋外・森林・里山でのフィールド活動が容易になるように既存の施設の整備を行う。また、屋内・街中にも、木や木製品・木製玩具と触れ合うことのできる常設の施設が欲しい。さらに、気軽に木を素材にしたものづくり体験のできる施設となることを望みます。</p>
佐藤副会長	<p>【木育について】公共建築物だけではなく、民間の施設での木質利用を進めること。福岡ではコロナ禍の中で、木質空間で何時間でも仕事ができる喫茶店（Ta*Te:https://ta-te.jp/）などできて、木質リノベをやりたい人も増えています。また、熊本では是非取り組んでほしいのは子供たちの木育施設です。宮崎県日南市の子育て支援センター「ことごと」（https://www.facebook.com/nichinan.kotokoto/）は子供やお母さんたちにすごい人気で、商店街の活性化にもつながっているようです。</p> <p>【森林が親しむ森林空間】中高年に親しまれている低山は多いと思いますが、これも親子や子供たちが親しむことができる森林空間利用の提案が必要だと考えます。鳥取県智頭町の森のようちえん、まるたんぼう（http://marutanbou.org/）をみると子供たちが森の中で生き生きとしています。</p>
高宮委員	<p>先日の熊日（2021/2/24）に掲載された伊藤比呂美さんの「がまの穂」通信を読んで、思う点が2点ありました。</p> <p>私も清水への急な道を初めて下った時、同じような感想を持ちました。誰にも会わない山中を下っていくと突然街中に出るのです。立田山に立田自然公園や五高の森から入る場合は、次第に民家が減って山に入る感覚なんです。清水は通常の町からいきなり山になる感覚です。このように市民生活に馴染み、通常生活の隣り合わせの森の貴重さをもっと文章に盛り込むべきだったと思いました。</p> <p>個人的な話ですが、30年近く立田山で植物分類の学生実習をやっていて、歩いて植物採集に行ける場所がある大学を他には知りません。身近にある豊かな自然も伝え方が足りなかったと思いました。</p> <p>もう1点は、伊藤さんの文章にある山の神の話です。森の文化機能に触れてはいるものの、もう少し信仰や歴史などを書き込むべきでした。</p> <p>市民目線が足りなかった思いがあります。</p> <p>伊藤さんの記事や、参考までに講義で使った戦後の立田山の航空写真を添付しました。航空写真は、戦中ほとんどはげ山になった立田山が、如何に森林を発展させたか分かります。著作権が有るでしょうから、公表はご注意ください。市役所や熊日にもっと鮮明な写真が有るかも知れません。余分なことですが、来年の「全国都市緑化くまもとフェア」の参考になればと思いました。</p>

委員意見一覧

推進方策3

「市民が親しむ森林空間の創出と森林に対する市民理解の醸成」についてのご意見（具体的な取組等）

委員名	ご意見
井野委員	<p>放置竹林利活用事業等により森林空間の創出を行った地域においては、行政主導ではなく、地域が主体となったイベントの開催を行うことで、開催した地域のコミュニティが深まるとともに、他地域から参加した方々が、自分の身近な森林について興味をもって頂くことが出来るのではないかと思います。</p>
本田委員	<p>市民が親しむ森林空間の創出は、登山やトレッキングだけでなく、乳幼児への森林自然体験としての「森の幼稚園」、小中学生に対する「総合的な学習の場」、大人に対する「生活習慣病予防等の健康づくり」等、各年代ごとに共通する環境教育等を伴った『生涯学習の場』『憩いの場』としての明確な位置づけを周知徹底する必要があると思われます。</p> <p>また、森林に対する市民理解の醸成については、日常生活の中で、ほんのひと時、森林を活用することにより、より生活が豊かになる機会を設け、体験してもらう必要があると思われます。これには、森林が重要な地域資源である事への周知を行政と共に大学等の教育機関、民間企業を活用することも必要であります。取り組み事例として、北区の立田地域内にある小さな森（公園）では、地域の共有財産である幼保小中学生を通じて、その小さな森を地域行事の核として位置付け、各月に行われている森の幼稚園と年1回演奏されている”森の音楽会”などは、校区内における企業、商店、個人が一体となって森の活用をしています。</p>
甲斐原委員	<p>「金峰森の駅みちくさ館」の整備と積極的活用（主催・共催事業の検討・実施、他施設とのネットワーク化：森林学習館、金峰山少年自然の家、植木三ノ岳森公園他、） ・金峰山湧水群の紹介 ・学校林の整備・活用</p>
柿本委員	<ul style="list-style-type: none"> ●方策－1）森林整備に市民参加の機会をつくる。時間も手間もかかっても余地を残しておく。関わる市民が親しみをもち維持管理できるように。 ●方策－2）木育から森育へ。木工教室に留まらず、森林の現状を知り、自分ごととして捉えてもらい、積極的な参加を促す。（樹種当てクイズ） ●方策－3）地下水豊富な熊本の「水検定」に加えて、森のみやこ熊本市の「森検定」も設ける。学んだ人が情報発信基地になり「森育塾」を開設 ●方策－4）プラットフォームづくり。各ボランティア団体や市民活動団体と、行政や専門家をつなぐパイプ役が必要。問い合わせ窓口も。 ●方策－5）伐採後の資源を生かす。木質アスファルト、市中での木質化、森林くじ引き

委員意見一覧

その他

ご意見や、活動のご紹介など、ご自由に記載ください

委員名	ご意見
田口会長	<p>木を素材にした教育として木育があります。熊本大学では、学生の講義や教員研修、小・中・高校での出前授業にも木育を取り入れています。</p> <p>熊本大学教育学部では、熊本県の支援をいただき毎年5箇所木を素材にしたものづくり教室（ものづくりフェア、1回に200人～1000人の参加）を実施しています。木を素材にすることで、子供たちや保護者の方、さらには祖父母（高齢者）の方も楽しんでいただいています。</p> <p>さらに、木育・ものづくり教育を担当できる指導者養成講座も実施し、11年で2800人の修了者がいらっしゃいます。県内で大凡1000人です。本年度は、遠隔による講座も実施しました。</p> <p>熊本県、日田市、電通と協働で、それぞれの目的に対応した木育の副読本の制作を行っています。</p>
佐藤副会長	<p>あまり展望は見いだせないとのことで、森林の整備の担い手は市外の森林組合や林業事業体に委ねるという方向の議論が主流になりましたが、もう少し可能性を追求してもよいと思います。熊本市内でもITでデスクワーク中心の働き方をしている人も多いと思います。東京で林業研修に参加する方はそういう方です。今までの規制概念にとらわれない担い手（専従というよりも、副業的な働き方を提案すると）育成の道筋が見えてくるかもしれません。</p> <p>今日は学会報告と重なり、最後の委員会に参加できず申し訳ございません。また、委員の皆さまとはオンラインでの会議だけになり失礼しました。熊本らしい計画ができたと思います。これを活かして持続的な森林管理が進むことを期待しております。</p>
井野委員	<p>県内の森林山村多面的機能発揮対策交付金を利用した活動で、地域での取組としては、宇土市の上松山区の活動が盛んである、五色山ふれあい会のホームページで確認出来るが、五色山ふれあい会を中心に自治会である上松山区全体で、地域の森林を再生したいとの意欲が伺われる。この組織にも核となる人物が数名いる。また、新聞でも掲載されたが、八代の稲荷山では、かつて遠足で行った山の上の展望台で見た八代の景色をもう一度見たいと、ライオンズクラブが中心となり整備を行っている組織や、かつての林産物であるハゼの再生を行っている水俣の組織、ツバキの再生することで、天草の再生を行っている組織など、それぞれに、将来像を描きながら、指揮をとる人物がいることが特徴といえる。</p>

委員意見一覧

その他

ご意見や、活動のご紹介など、ご自由に記載ください

委員名	ご意見
柿本委員	<p>●森林環境贈与税の活かし方として、1) 森林整備と維持管理、2) 担い手育成、3) 活用の場の育成、の3本柱があると考えます。私自身は、川下の立場（建築設計）ですが、川上の方々と連携し、森の現状、林業の現状など、関心のある方々には、木育ワークショップの開催などで啓発活動を行ってきました。3)の部分にあたるでしょうか。コロナ禍にあり、むしろ屋外のイベントはこれから増えていくと思います。1)や2)も絡めて、今後は進めていきたい所存です。</p> <p>●これまで、建築の生業以外には、啓発活動のグッズとして、環境絵本「植えない森」、「スギのうた（クリプトメリアヤポニカを知ってもらう）」、もくピーず（スギのアクセサリーなど端材利用）を行ってきました。</p> <p>●今後は、方策-3)のイメージ補足にもなりますが、かつてクスノキを熊本市内に植林した親子の物語から始まり、理科年表にある「環境年表ワークシート」のような図とデータを見て問題形式で考える、大人向け講座も作ってみたいと考えています。</p> <p>●森と樹と暮らしを繋ぐ活動を始めた頃は、「日本の木でないとダメなんですか？」や「日本の木は使っていないのですか？」とよく聞かれました。先日、土木学会のウッドチェンジシンポで、いまだに、山の木はCO2を空気からより、土中から吸い取っているとう誤解して認識している大人の割合が多くいと、驚きの調査結果発表があり、認識改善からしないとならないのではとの報告でした。むしろ子どもたちの方が、学んでそして危機を感じているかもしれません。「防災」や「気候変動」に関心が高まってきた今こそ、その視点で広い世代への啓発活動と、参加できる場の創設が望まれます。</p> <p>*全文中斜文字は、柿本のアイデアです。</p>